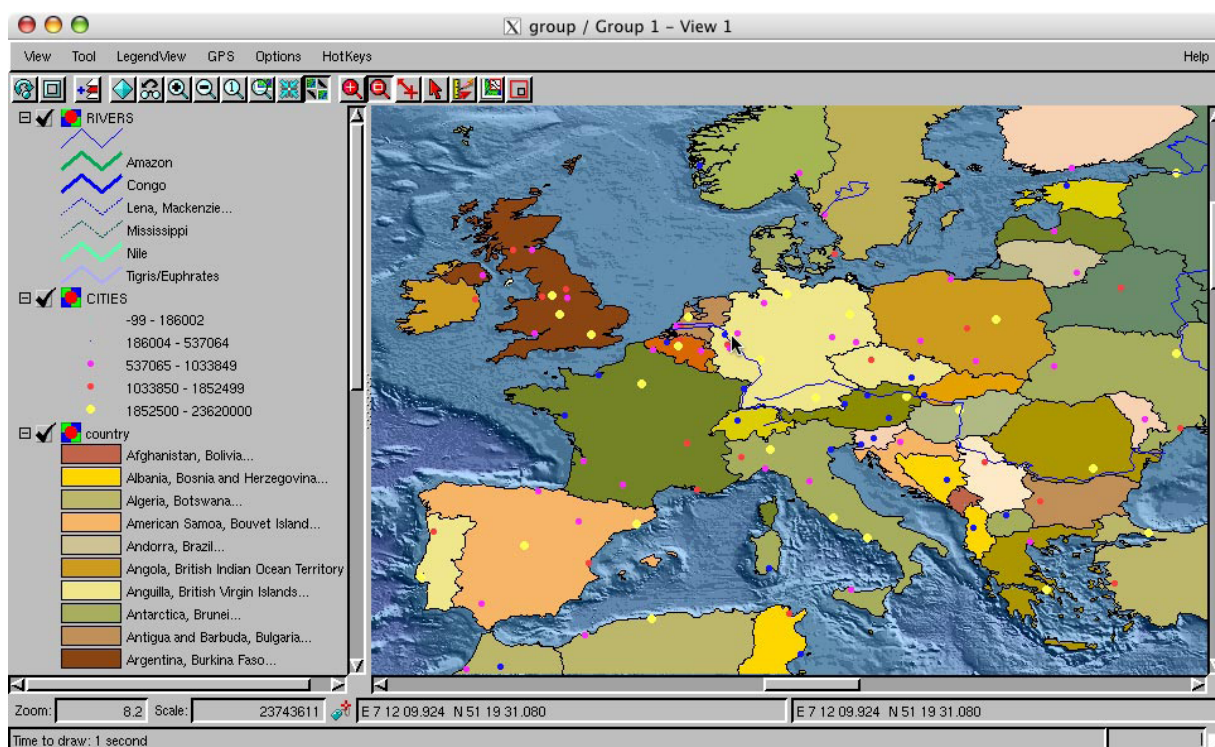


ESRI シェイプファイルの直接使用

ご存知でしたか?... ESRI 社のシェイプファイルを TNT 製品で直接表示/使用することができます。

ESRI 社のシェイプファイルを直接使用することで...

- ファイルをインポートせずにレイヤ表示することができます。
- オリジナルファイルを変更せずに見ることができます。
- avl ファイルがあればスタイルとしてそのまま利用することができます。
- prj ファイルがあればジオリファレンス情報としてそのまま利用することができます。
- prj ファイルがなければ緯度経度を想定し、座標は± 360 度以内を取ります。
- データティップなどの TNT 独自の機能はリンクファイルによってサポートされます。
- 表示だけではなく、ベクタのマージなどの処理に対してもファイルを選択することができます。



上の図は、TNT 製品において、リンクシェイプファイルを変更せずに直接表示する時に使用できる新機能を示しています。表示した3つのシェイプレイヤはどれもデータティップを使用しています。表示する値は選択したデータベースフィールドから提供されますが、TNT リンクファイル (rlk) の中に定義されています。選択するデータベースフィールドはシェイプファイルの中でもリンクファイルの中でも構いません。国のレイヤ (country) は avl ファイルを利用してポリゴンを塗り潰しています。他方、川のレイヤ (RIVERS) は TNTmips によって作成され属性に割り当てられたスタイルを使用しており、都市のレイヤ (CITIES) はテーママッピングを使用して人口分布を表しています。これらのスタイルは TNT の rlk ファイルの中に作られ、TNTmips で次にシェイプファイルを開く際にも自動的に使用されます。

シェイプファイルの直接使用の手順

- ファイルの上でダブルクリックします。
- [Open With] を使って空間データ表示において新しいウィンドウを開きます。
- TNT オブジェクト選択ダイアログにおいてファイルを選択します。

さらに知りたいことがあれば...



以下のチュートリアルをご覧ください：
他の主な製品で地理データを共有する
(Sharing Geodata with Other Popular Products)

